

自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年度

令和 4年 4月 1日から

令和 5年 3月31日まで

令和4年度 自己評価書

～教職員研修 および「学校教育についてのアンケート」結果をもとに～

中央学園高等専修学校

1. 本校の教育目標

「一人ひとりの命輝く教育を目指して」

- ・「愛と誠」の建学の精神を基盤とし、国民として社会生活が円満にできるために必要な知識と技術を習得させ、健康で豊かな心情を持ち、時代の要請に応え得る人材を育成する。

2. 重点的に取り組む目標及び計画

- ・基礎学力の充実ならびに専門技術の習得
- ・基本的生活習慣の確立
- ・就学指導の徹底
- ・保護者との密接な連携
- ・就職・進学対策および五ヶ年一貫教育の浸透
- ・募集活動と広報活動の強化

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
学習指導と教科指導	<p>① 学力テスト、定期テスト等の成績を参考にして個々の生徒の基礎学力、能力等を十分に把握したうえで、生徒がわかる授業を行い、学力の向上に努力させる。</p> <p>② 常に技術の熟達を目指し、習得した技術の検定を受検させ、より多くの検定資格を取得させることで、達成感を与える。</p>
生徒指導と生活指導	<p>① 校風を理解し、規則正しい生活習慣を身につけさせ、楽しい学園生活が送れるよう努力する。</p> <p>② 各学年各クラスでのホームルーム活動に取り組み、個々の生徒を細かく熟知し、より主体的に行動することができる生徒の育成を目指す。</p>

人権教育	<p>① 「いじめ」をはじめとする、いかなる人権侵害も許さない意識を育てる。</p> <p>② 支え助け合う生徒集団の育成に努める。</p>
就学指導	<p>① 一人ひとりの生徒の特性を理解し、三年間で履修単位を完全に修得させ卒業させることを目標として教科指導、技術指導にあたる。</p> <p>② 多様な生徒が在籍することを理解し、常に生徒の立場にたって指導する。欠席が多い生徒については学年会議で協議を重ね、退学に至らないよう最大限努力する。</p> <p>③ 教室で授業を受けることが困難な生徒へのサポートとして、個別学習クラスを設け、心の安定をはかる。</p>
保護者との連携	<p>① 電話や文書、中学校との連携、家庭訪問などケースバイケースによって密接な連絡をとりながら生徒の個性の伸長を図るように努める。</p> <p>② 遅刻、早退、欠席、不登校等、個々の生徒について実態を十分把握し、保護者との連携を密にし、その対応に際しては十分配慮する。</p>
進路指導	<p>① 入学した生徒が三年間の学習の中で得た知識・技術が十分いかされ、生徒の適性や希望に合った進路を選択させる。</p> <p>② 五ヵ年一貫教育として、中央 IT ビジネス専門学校へ内部進学することを勧め、近畿大学短期大学部との併修により専門士・短期大学士の資格を修得できるよう指導する。</p>
募集活動と広報活動	<p>① 中学校を定期的に訪問し、本校の内容・特色を丁寧に説明し、在校生の状況を報告する。</p> <p>② 生徒の成長と卒業が、更なる募集につながることを認識し、一人ひとりの学校生活の充実に全力を挙げる。</p> <p>③ SNSによる広報を行い、体験入学・学校説明会・授業見学会に数多く参加してもらい、本校をより良く理解してもらえよう、中身の充実と真摯な対応を心掛ける。</p>

4. 学校教育自己診断(保護者用) 集計結果

令和5年1月実施

中央学園高等専修学校

NO	質問	回答					グラフ
		4	3	2	1		
1	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	14	23	11	5	53	
		26.4	43.3	20.7	9.4		
2	学校の雰囲気が良く、生徒が生き生きしている。	5	32	13	1	51	
		9.8	62.7	25.4	2		
3	学校は教育方針をわかりやすく伝えている。	15	29	9	0	53	
		28.3	54.7	17			
4	この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。	15	27	11	1	54	
		27.8	50	20.3	1.9		
5	先生は生徒をよく理解し、親身に接している。	23	20	9	2	54	
		42.6	37	16.7	3.7		
6	子どもは授業がわかりやすいと言っている。	8	24	18	3	53	
		15.1	45.3	34	5.7		
7	先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。	20	26	5	3	54	
		37	48.1	9.3	5.6		
8	学校は保護者の相談に適切に応じてくれる。	25	20	6	3	54	
		46.3	37	11.1	5.6		
9	先生は子どもの間違っただ行動を厳しく指導してくれる。	23	24	6	1	54	
		42.6	44.4	11	1.9		
10	学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	15	32	4	3	54	
		27.8	59.3	7.4	5.5		
11	学校の生徒指導方針は、保護者に示されている。	17	25	10	1	53	
		32.1	47.2	18.9	1.9		

NO	質問	回答	回答					グラフ
			4	3	2	1		
12	学校は将来の進路や職業について、適切な指導を行っている。	21	23	7	2	53		
		39.6	43.4	13.2	3.8			
13	学校は進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。	16	26	8	3	53		
		30.2	49	15.1	5.7			
14	学園祭や体育大会・宿泊行事等の学校行事は積極的に参加できるよう工夫されている。	26	22	6	0	54		
		48.1	40.7	11.1				
15	部活動は活発に行われ、熱心に取り組んでいる。	10	27	13	1	51		
		19.6	52.9	25.2	1.9			
16	学校は子どもの生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。	21	27	6	0	54		
		38.9	50	11.1				
17	地震や台風等に対して、迅速で適切な対応を行っている。	18	19	15	2	54		
		33.3	35.2	27.8	3.7			
18	学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。	15	29	9	1	54		
		27.8	53.7	16.7	1.9			
19	学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。	20	29	4	1	54		
		37	53.7	7.4	1.9			
20	ホームページは見やすく構成され、適切な情報発信がなされている。	14	24	14	2	54		
		25.9	44.4	25.9	3.7			

※ 棒グラフ内の数字は回答者数

- 4 … よく当てはまる
- 3 … やや当てはまる
- 2 … あまり当てはまらない
- 1 … 全く当てはまらない

5. 学校教育自己診断(教職員用) 集計結果

令和5年3月実施

中央学園高等専修学校
中央ITビジネス専門学校

NO	質問	回答				計	グラフ
		4	3	2	1		
1	生徒は、学校に来ることを楽しみにしている。	2	12	3	0	17	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		11.8	70.6	17.6	0.0		
2	生徒は、学校内で生き生きしている。	2	12	3	0	17	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		11.8	70.6	17.6	0.0		
3	先生は、生徒を理解している。	3	8	5	0	16	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		18.8	50.0	31.3	0.0		
4	本校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。	3	10	3	0	16	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		18.8	62.5	18.8	0.0		
5	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。	2	8	5	1	16	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		12.5	50.0	31.3	6.3		
6	生徒は、授業が分かりやすいと言っている。	1	7	9	0	17	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		5.9	41.2	52.9	0.0		
7	先生は、生徒の評価を適切・公平に行っている。	3	13	1	0	17	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		17.6	76.5	5.9	0.0		
8	学校(先生)は、保護者の相談に適切に応じている。	7	7	2	0	16	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		43.8	43.8	12.5	0.0		
9	先生は、生徒の間違った行動を厳しく指導している。	6	6	5	0	17	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		35.3	35.3	29.4	0.0		
10	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	7	10	0	0	17	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		41.2	58.8	0.0	0.0		
11	学校の生徒指導方針は、保護者に示されている。	3	10	2	0	15	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
		20.0	66.7	13.3	0.0		

NO	質問	回答				計	グラフ
		4	3	2	1		
12	学校は将来の進路や職業について、適切な指導を行っている。	7	7	3	0	17	
		41.2	41.2	17.6	0.0		
13	学校は進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。	6	6	4	0	16	
		37.5	37.5	25.0	0.0		
14	学園祭や体育大会・宿泊行事等の学校行事は積極的に参加できるよう工夫されている。	8	7	1	1	17	
		47.1	41.2	5.9	5.9		
15	本校の部活動は活発である。	2	6	9	0	17	
		11.8	35.3	52.9	0.0		
16	学校は生徒の生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。	7	8	2	0	17	
		41.2	47.1	11.8	0.0		
17	地震や台風等の対応について、生徒や保護者に対応マニュアルを通知している。	4	9	1	2	16	
		25.0	56.3	6.3	11.8		
18	学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。	9	6	2	0	17	
		52.9	35.3	11.8	0.0		
19	学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。	7	7	3	0	17	
		41.2	41.2	17.6	0.0		
20	学校のホームページは適切に更新され、生徒募集に繋がる情報発信になっている。	2	5	7	1	15	
		13.3	33.3	46.7	6.7		

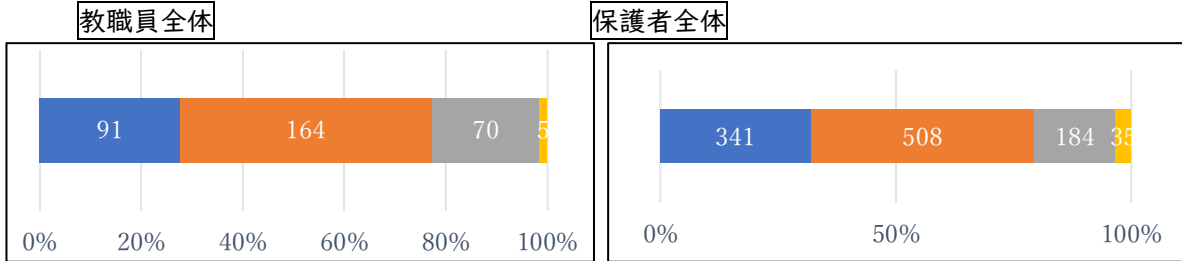
※ 棒グラフ内の数字は回答者数

- 4 … よく当てはまる
- 3 … やや当てはまる
- 2 … あまり当てはまらない
- 1 … 全く当てはまらない

6. 学校教育自己診断 結果と考察

1. 全体の分析

教職員と保護者の各質問に対する回答をまとめると次のグラフのようになる。
グラフ内の数字は回答者数、グラフの左側は肯定的意見、右側は否定的意見



青：よく当てはまる 橙：やや当てはまる 【青+橙=肯定的意見】
 鼠：あまり当てはまらない 黄：全く当てはまらない 【鼠+黄=否定的意見】

- ・教職員、保護者とも約80%が学校の取組みに肯定的な回答を寄せている。

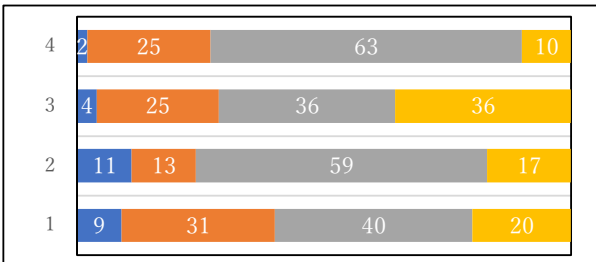
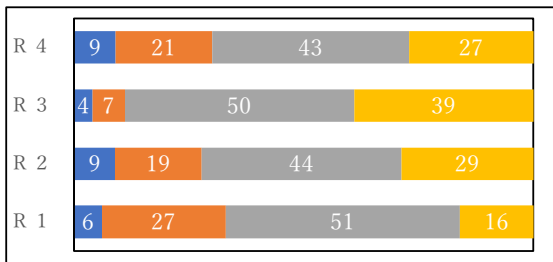
2. 経年変化

保護者の経年変化をみると、以下のようになる。

グラフ内の数字は%、グラフの左側は否定的意見、右側は肯定的意見

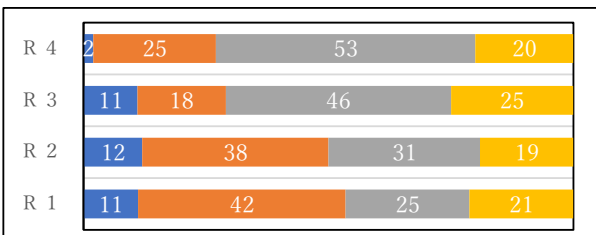
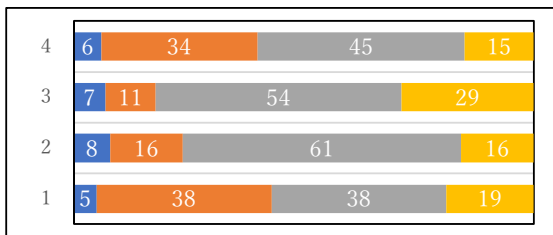
質問1：子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。

質問2：学校の雰囲気が良く、生徒が生き生きしている。



質問6：子どもは、授業がわかりやすいと言っている。

質問15：この学校の部活は活発である。



- ・生徒たちが学校に来ることに對して否定的な回答は、33%（R元年）、28%（R2年）、11%（R3年）と順調に減少してきたが、R4年は30%と増加した。原因が何なのか考えていきたい。
- ・『生徒が生き生きしている』に肯定的な回答は、令和2年度の76%に次ぐ73%と高い数値を記録した。
- ・『授業のわかりやすさ』については、肯定的意見が60%と低い数値である。生徒の実態に合わせた授業を行う必要である。
- ・『部活動の活発さ』に肯定的な意見は、令和元年度から46%、50%、71%、73%と順調に増加している。各部活動顧問の努力が評価されてきていると考える。

3. 自由記述欄

(1) 保護者の意見

- ・本人にとっては、色々成長する所もあり、感謝している。今後も発展するよう頑張ってもらいたい。3年間ありがとうございました。
- ・勉強が苦で、高校生活が続かない子も中央学園という存在で救われた子も多いと思う。先生と生徒の距離も近いし、何でも話せる良い環境の学校だと思います。
- ・試験の答案は各生徒に返し、復習できるようにした方が良くと思う。
- ・テスト1週間前くらいは、勉強会をしてほしい。
- ・去年の学園祭の時に、体育館内で一部うるさい生徒がいた。先生には注意をしてほしかった。

(2) 教職員の意見

① 意見、提言等

- ・職員のスキルアップにつながる研修・実践交流等の実施をしてほしい。
- ・自己肯定感の低い生徒たちに「自信」と「意欲」を持たせることができる取組を学校全体で考えていく必要がある。
- ・多くの先生が素晴らしい発想を持っているが、それらを吸い上げるシステムがほしい。大人数の会議ではなく、少人数からヒアリングを行ってほしい。
- ・自信が無かったり、自己肯定感が低い生徒もいるので、何か好きなこと、少しでもできることを見つけ、前向きになれるような声掛けが必要だと思う。勉強ができないと言われ続け、自分でもそう思い込んでいる生徒もいるので、少しずつ「わかる」「できる」ことを増やしていく授業をしていきたい。

② 1年間の感想と反省、次年度に向けて

- ・「自分が努力すること」「他者と協力して尽力すべきこと」「学校として取り組んでいくこと」を明確にして、まず自分の努力目標を設定していく。
- ・科内で連携を取り、学年の隔たりなく、学ぶことの楽しさを教えていきたい。各科目のプランニングを共有し、アクティブに授業を行いたい。個々の能力に応じてできることを考える。
- ・自分のことは自分でする力、『自分力』をつけさせたいと思って、担任・授業・部活動に取り組んできた。一歩間違えると、放任になってしまうので、その点については注意をして引き続き取り組んでいく。
- ・生徒募集において、『授業の分かりやすさ』『生徒対応の質』は、現在籍生徒を大切にするという意識で伝えたい。今日の前にいる生徒を第一に考えて、取り組みたいと思う。
- ・もっと色々なことができたはず、この気持ちを大切に、次年度に実践していきたい。
- ・学級担任を持たない状況での生徒指導は難しいと感じた。初心に戻り、「生徒ファースト」でやっていきたい。

令和4年度 学校関係者評価書

中央学園高等専修学校

1. 評価項目別の学校関係者評価

〔1〕学習指導と教科指導

- ・多様な生徒が在学し、習熟度別や個別の指導が不可欠であるが、個々の状況や学力・能力を見極め、課題に応じた指導を工夫している。
- ・様々な特性も、かけがえのない個性であると尊重し、更なる生徒理解に努力を要する。

〔2〕生徒指導と生活指導

- ・校則に違反する生徒は少なくなってきたが、体調不良や生活リズムの乱れから、遅刻・欠席が目立つ生徒があり、改善に努力する必要がある。
- ・登校しづらい生徒に対して、オンデマンド授業やクラスルームを活用して、家庭での学習と体調管理を行うことが大切である。

〔3〕就学指導

- ・中学生時から学校へ行きづらい面を持つ生徒も多くなってきたが、当人のペースに合わせ登校させる個別学習クラスを設け、対応している。
- ・遅刻者を減らすための早朝登校指導や、欠席者に対する補習・補講など、就学指導に対する体制を強化することが求められる。

〔4〕保護者との連携

- ・学校の教育方針を理解してもらい、保護者への協力を得ることは必要不可欠と捉え、良好な連携が築けている。
- ・一方で、連絡や協力を取りにくい家庭もあり、家庭訪問なども必要となってくる。

〔5〕進路指導

- ・就職を希望する生徒については、コロナ禍以降の厳しい状況に一転したなか、内定率は100%に近いところまで来ているが、すぐに仕事を辞めてしまう場合もあり、社会人としての心構えが大切となる。
- ・一方で、進学する生徒については、おおむね希望する学校へ合格しているが、ファッションクリエイター科や保育科からは卒業後の進路を変更する者もあり、今後の課題といえる。

[6]募集活動と広報活動

- ・オープンスクール・体験入学の参加者は明らかな減少傾向となり、受験に結びつかないケースも多く、より丁寧に、より魅力的な内容の検討が必要である。
- ・ホームページの更新とリニューアル、インスタグラムの活用など、SNSでの広報活動の更なる充実をはかり、周知してもらいたい。

2. 学校関係者評価総評

深刻な少子化や授業料無償化など私学経営はますます厳しくなるが、当校においても生徒数減が顕著となり、改革が求められる。

保護者からの学校に対する要望や意見については、おおむね好評価を得ており、生徒各人のこれまでの学校生活から比べれば、生活態度・学習意欲・学力全般・専門技術の習得・人間関係・将来の目標など伸長もしくは改善されているが、子どもの悩みにもっと寄り添ってほしいという指摘もあり、見過ごせないところである。

教職員のアンケートからは、教職員間の連携が不足気味で、話し合いやコミュニケーションが不十分ではないかと危惧する面もあるが、個々の回答からはもっとより良い授業ができたのではないかなど、今後への熱意も感じられ、評価に値する。

「愛と誠」を建学の精神とする当校は来年度、創立100周年の大きな節目を迎えることとなり、学校運営や教育活動については、確固たる理念と実践を重ねてきた経緯がある。今後もより一層、時勢に即した新しい情報をもとに生徒の実態を分析・把握するとともに、施設・設備の改修も含めたより良い環境づくりが求められる。

高等専修学校は、職業教育はもとより、低学力・不登校・問題行動・コミュニケーション能力・基本的な生活習慣など様々な支援体制が求められることを十分に再認識し、生徒または保護者にとっての最後のよりどころとして、更に確たる地位を築かれることを期待する。

3. 学校関係者評価委員会

- ・企業 および 関係団体代表 3名
- ・高等学校代表 1名
- ・地域住民代表 1名

令和4年度 自己評価書

～教職員研修 および「学習についてのアンケート」結果をもとに～

中央 I T ビジネス 専門学校

1. 本校の教育目標

「一人ひとりの命輝く教育を目指して」

- ・ 望ましい社会的連帯感育成の基盤を「愛と誠」に求め、豊かな人間性と誠実な心情を育成する。
- ・ 「蛍雪の誓い」を教育理念の根本に位置づけ、たゆまざる努力により人間的教育を身につけるとともに、進んで自己の可能性を追求しようとする意欲・態度を育成する。
- ・ 高度な技術の習得を目指し、自己を高めようと自主的積極的に努力する態度を育成する。

2. 重点的に取り組む目標及び計画

- ・ 学習指導の充実ならびに専門技術の熟達
- ・ 基本的生活習慣の確立
- ・ 人権意識の育成
- ・ 進路指導の充実
- ・ 募集活動の強化ならびに五ヶ年一貫教育の確立

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
学習指導	① 基礎学力の向上に努める。 ② ITスキルの習得とビジネス知識の理解へ向けて、主体的・積極的に学ぶ姿勢を養う。
学生指導と生活指導	① 学生の生活実態や心情を理解し、素早い情報の提供による、一致した指導に努める。 ② 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を最重点目標として取り組む。

人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 「いじめ」をはじめとする、いかなる人権侵害も許さない意識を育てる。 ② 支え助け合う学生集団の育成に努める。
進路指導と学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 最適な進路決定ができる力を養う。 ② 支援を要する学生の進路について考えていく必要がある。 ③ 保護者との連携を深め、進路保障に努力するとともに、メンタルケアを含めたサポート支援体制を充実させる。
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生がより良い空間で学習への感性を磨けるよう、また有意義な学校生活が過ごせるように、安心安全な環境整備に努める。 ② 清掃活動の意義や大切さを理解させ、校内美化に取り組む姿勢をもたせる。
募集活動	<ul style="list-style-type: none"> ① オープンキャンパス・学校説明会を数多く開催し、本校をより良く理解してもらおう。 ② ホームページやブログの充実に努める。 ③ 本学園五ヶ年一貫教育の集大成の場として、中央学園高等専修学校の生徒に対し、内部進学を勧める。

4. 自己評価と今後、取り組むべき課題

- ・ 支援を必要とする学生も増えつつあり、学生一人ひとりの学力に少なからず差があることに課題はあるが、丁寧な指導ときめ細かな関わりを持つことを教職員全員が徹底し、今の学生の実態やニーズに合った授業内容や環境を整え、学習面だけに限らずあらゆる面で個々の能力や考え方を伸ばし、レベルアップをはからなければならない。
- ・ 各企業からの求人は年々増加し、就職内定率は100%にほぼ近い状況ながら、コロナ禍も峠を越えたとはいえ企業の採用状況は厳しさを増している。進路指導のさらなる強化が求められ、ボランティアや校外活動・課外活動にも積極的に参加させ、職業観や就職への意識を高める必要がある。

5. 学習アンケート(学生用) 集計結果

令和5年2月実施

中央ITビジネス専門学校

<授業と学習指導について>

- 1 あなたは、学習に対して意欲的に取り組んでいますか。
- 2 IT科目の授業は、よく理解できていますか。
- 3 ビジネス科目の授業は、よく理解できていますか。
- 4 近大科目の授業は、よく理解できていますか。
- 5 先生は学習に関する質問や相談に丁寧に応じてくれていると思いますか。

<行事について>

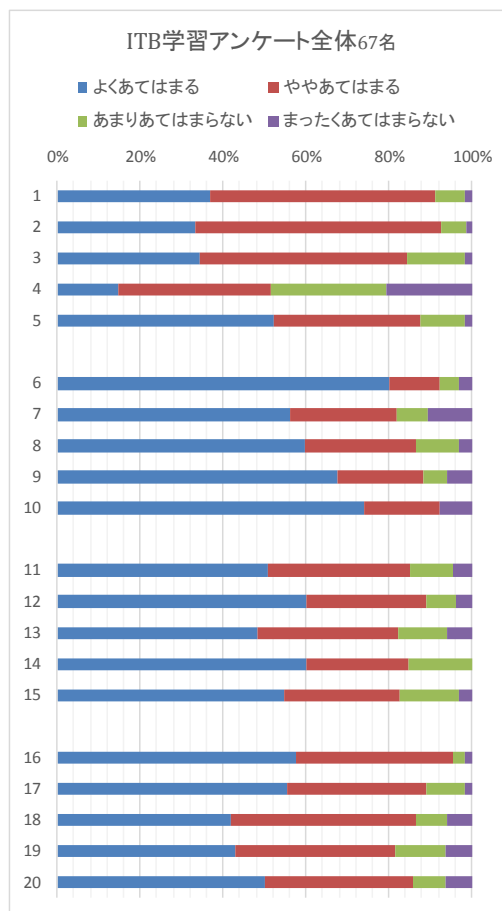
- 6 自然体験学習(浜寺公園BBQ)はよかったですか。
- 7 社会見学(京都方面)はよかったですか。
- 8 スポーツ大会はよかったですか。
- 9 学園祭はよかったですか。
- 10 一泊研修(神戸方面)はよかったですか。

<進路に関する取り組みについて>

- 11 合同企業説明会は満足できるものでしたか。
- 12 ITB集中講座は満足できるものでしたか。
- 13 進路講演会は満足できるものでしたか。
- 14 ボランティア活動は満足できるものでしたか。
- 15 インターンシップ研修は満足できるものでしたか。

<学校生活について>

- 16 マナーやルールを守るように取り組んでいますか。
- 17 行事や様々な活動でまわりの人と協力して取り組んでいますか。
- 18 清掃活動や環境美化に力を入れて取り組んでいますか。
- 19 先生に気軽に相談できる雰囲気があると思いますか。
- 20 ITBでの学生生活は満足のいくものですか。



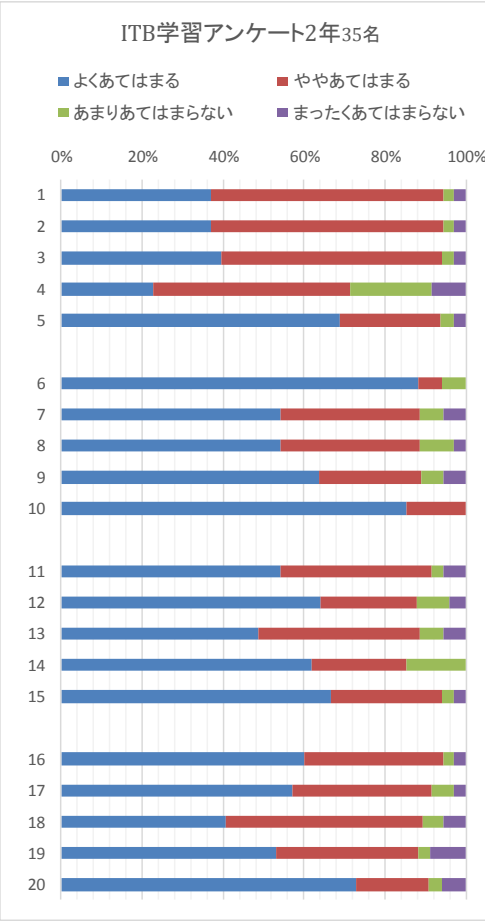
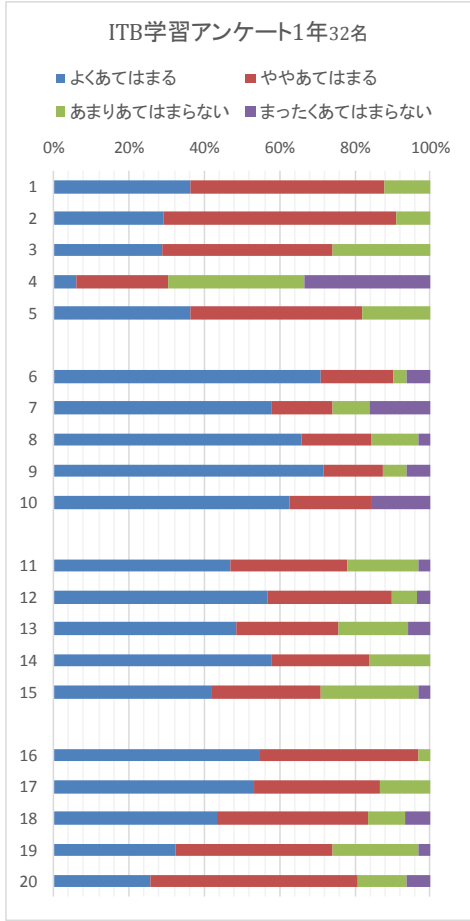
<授業と学習指導>
 学習に対する意欲・IT科目・ビジネス科目の理解は、概ね良好であるが、近大科目の理解度は低い。先生が学習に関する質問や相談に丁寧に応じてくれると思う学生の割合は2年が高い。

<行事について>
 肯定的な意見が多く、特に自然体験学習や一泊研修の満足度が高い。

<進路の取り組み>
 合同企業説明会やITB集中講座の満足度は高い。インターンシップ研修の満足度は2年が高い。

<学校生活>
 マナーやルールを守り協力して取り組んでいる。学生生活の満足度は2年が特に高い。

※概ね良好な結果であるが、近大科目の取り組みが課題である。



<感想や意見>

1年

もっとプログラミングのこと（Python、Javaなど）の授業をしたかったです。

インターンシップは初めはものすごく緊張したけどだんだんとなれていくうちに、この体験の意味がわかるように感じました。

インターンシップは初めての仕事に対する態度など貴重な経験になりました。

ボランティア活動の手伝いなどよい経験になりました。

清掃のボランティアに参加したかった。

もうちょっと相談できる雰囲気をつくってほしい。

最初は不安だったけれど今はまあまあ楽しく通えている。

1年間楽しい学校生活が送れました。

2年

2年間通して楽しくもあり、失敗することもあったけど充実したものになったと思います。

ITBでの学生生活はすごく良かったし、行事も楽しかったのですごく良かったです。

ITBを通してボランティアや企業でのインターンなど様々な経験ができてとてもよかった。

コロナで予定通りいかないのはしかたがないが、事前の予定変更などをこまかに教えてほしい。

2年生になって初めての一泊研修などとても楽しく学生生活を送れたと思います。

みんなよい先生で相談しやすかったし、ちゃんと考えてくれてたように思います。

ITBで学べてよかった。思い出に残る2年間だった。

ITBビジネスマナーがあってとても役立つし、先生も相談にのってくれるので、とても助かりました。

ITBに入学してから少しずつ成長できたのでとてもよかったと思いました。

令和4年度 学校関係者評価書

中央 IT ビジネス専門学校

〔 総 評 〕

学生はそれぞれにコロナとの向き合い方を考えながら、オンデマンド授業の導入など、感染拡大防止と学校活動とのバランスをはかっていくことができた。

中央 IT ビジネス専門学校は、近畿大学短期大学部との併修制度を取り入れながら、専門学校生としての技術の習得と、短期大学生としての教養を身につけることを第一の目標としているが、これを両立することは学生にとって簡単なことではなく、近大の卒業をめざせる学生が少なくなっていることは課題となる。

しかし、IT科目・ビジネス科目・近大科目・放課後のゼミナール、それぞれに基礎から応用へと確実にレベルアップしていけるよう、きめ細かな学習指導がなされていること、学業だけでなく様々な体験や経験ができるよう課外活動にも力をいれていること、綿密な進路指導により高い就職内定率を維持していること、などによって、中央学園高等専修学校からの内部進学生は年々増加してきている。

外部の高校からの入学も期待したいが、内部進学生にとっては後藤学園の五ヶ年一貫教育の集大成となる専門課程において、学生個々の特性をしっかりと見極め、進路決定できるようサポートしてもらいたい。

○ 学校関係者評価委員会

- ・企業 および 関係団体代表 3名
- ・高等学校代表 1名
- ・地域住民代表 1名

令和4年度 自己評価書

～教職員研修および教職員向け「保育についてのアンケート」結果をもとに～

中央幼稚園

1. 本園の教育目標

「一人ひとりの命輝く保育を目指して」

- ・健康でたくましい心身の形成に努める。
- ・音楽や造形を楽しみ、豊かな感性をはぐくむ。
- ・絵本や物語・図鑑などに親しみ、言葉への興味と想像力を培う。
- ・いろいろな遊びを通して、共感しつながらあえる仲間づくりを行う。
- ・自主性を育て、確かな判断力を身につける。
- ・規範意識とともに、豊かな道徳性を育成する。
- ・安全教育を徹底する。

2. 本年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・園児の基本的な生活習慣の確立
- ・園児の個性伸長、豊かな感性の育成
- ・教師としての資質・能力の向上
- ・家庭との連携、地域社会とのかかわり
- ・危機管理の徹底、安全安心な園づくり

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
保育の在り方	<ol style="list-style-type: none">1. 園の教育目標・重点目標が教職員に周知されている。2. 教職員が幼稚園教育要領を理解している。3. 教育目標・教育要領をもとに、園の教育課程を編成している。4. 教育課程、園児の実態をもとに、指導計画を作成している。	幼稚園教育要領を根幹に、本園の教育目標・重点目標については、教職員に周知されている。 主任・チーフを中心に、本園の教育課程を編成する。園児の実態に即し、学年および一人ひとりの発達や課題に応

	<p>5. 施設・設備の点検を行い、園児の活動を支え、かつ安全な環境構成を維持している。</p> <p>6. 園として1年間の保育について評価し、次年度の指導計画につなげている。</p>	<p>じた指導ができるように、指導計画に反映させる。</p> <p>施設・設備の定期的な点検を行う。より効果的な活用と、安全な環境維持に結びつける。</p> <p>年度末には、1年間の保育活動について教職員が自己評価し、有識者・保護者の評価も含め分析・考察を行う。全体研究を通して、次年度への展望・方向性につなげる。</p>
園児への対応	<p>1. 常に園児の健康・安全に向けた指導・配慮を心がけている。</p> <p>2. 一人ひとりの園児をよく観察し、個性を大切にされた指導・援助を行っている。</p> <p>3. できることは自分ですするという気持ち育て、身につけてほしい生活習慣の習得を促している。</p> <p>4. 園児の年齢に応じたわかりやすい語りかけや、適切なサポートをしている。</p> <p>5. 園児をほめたり、励ましたりしながら、目当てを持たせ、更なる意欲につなげている。</p> <p>6. 職員会議等で、園児の姿や課題を互いに報告しあい、共通理解を図っている。</p>	<p>園児の健康・安全については、日々の指導のなかできめ細かな配慮を心がけている。とりわけ自由お遊び、預かり保育時の事故防止に留意する。</p> <p>基本的な生活習慣の確立、個性・自主性の伸長に努める。指導計画に沿って、園児への指導・かかわり・サポートを日々行う。目当てを持たせること、励ますことで園児の意欲につなげている。</p> <p>課題のある園児については逐一報告され、共通理解を得ている。家庭環境を含めたケース会議に至ることもある。</p>
教師としての資質・能力	<p>1. 幼稚園教諭として、専門知識や技能を身につけている。</p> <p>2. 教職員全員で、ひとつのチームであることを意識している。</p>	<p>それぞれの教職員が、主任およびチーフ・担任・フリーとして、責任をもって園務分掌・役割を果たしている。園</p>

	<p>3. 個々の教職員が、当番や役割による仕事を確実にやっている。</p> <p>4. 教職員は、園児と会話をしたり遊んだりすることが好きである。</p> <p>5. 教職員は、園児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができている。</p>	<p>が組織として成り立っていることを理解することで、一人ひとりの能力が合わさり、チーム力として発揮される。</p> <p>何よりも子どもが好きである。園児の成長を保護者とともに理解し喜ぶことができる。この二点が幼稚園教諭の資質の基幹である。加えて、専門知識や技能の習得が、教諭としての成長につながる。</p>
保護者への対応	<p>1. 日々の取り組みや園児の様子を直接話したり、電話・手紙等を使ったりして保護者に伝えている。</p> <p>2. 保育参観や懇談会を行い、個々の子どもについて保育について家庭でのあり方について、共通理解を得ている。</p> <p>3. 保護者には、丁寧な言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。</p> <p>4. 保護者からのさまざまな訴え・要望・意見について、園長や主任に報告や相談をしている。</p> <p>5. 園児・保護者のプライバシーに関する情報については、守秘義務を果たしている。</p>	<p>日々の園児の姿や園の取り組みを、多くの機会を活用し直接保護者に話したり、電話・手紙で伝えたりしている。</p> <p>定期的に保育参観・懇談会を実施し、園を開放することで、保護者との連携を深める。保護者の意見・要望を率直に受けとめ、日々の保育に反映させている。</p> <p>知り得た保護者からの情報については、守秘義務の徹底を図る。</p> <p>定期的に保護者会（運営委員会）が開催される。保護者会をもとにした学校関係者評価を行う。</p>
地域社会との かかわり	<p>1. 地域の方々を園に招いたり、また地域に出向くことで交流を図っている。</p>	<p>外部講師・教材開発等により、専門分野を有する人材や多岐に渡る教材を活用する。 中学生・専門学校生の体験学</p>

	<p>2. 園庭開放・園行事参加など広く呼びかける。中学生・専門学校生の体験学習を受け入れている。</p> <p>3. 隣接する光竜寺小学校との幼・小連携を進めている。</p>	<p>習を受け入れる。関係機関の取り組みには、積極的に参加している。</p> <p>隣接の光竜寺小学校、校区の自治連合会、近隣の方々と交流を進めている。</p>
研修・研究	<p>1. 保育について、研修できる機会を教職員に保障し、研修への意欲を高めている。</p> <p>2. 研究保育等園内研修を通して、指導計画の作成、園児とのかかわり方など、保育の向上につなげている。</p> <p>3. 教材や遊具について、使い方・利用方法の研修を行っている。</p> <p>4. 障害のある園児、アレルギーへの対応および児童虐待など、今日的課題への理解を図っている。</p> <p>5. 預かり保育、子育て支援などのあり方について学習している。</p>	<p>学期ごとに研究保育を行い、教諭としての資質・実践力の向上につなげる。教材や遊具および園児の安全確保に関する研修を、随時実施している。</p> <p>管外研修に対しては日時の調整を行い、教職員の参加機会を増やしている。</p> <p>特別支援教育・食育・児童虐待・預かり保育・子育て支援等、今日的課題に関する研修の充実を図る。</p>

4. 今後、取り組むべき課題

- ・教育目標・重点目標と園児実態に基づき、適切な指導計画を作成する。教職員の自己評価・年度末反省、保護者等の外部評価を通して、各クラス・子どもの活動を分析・考察する。その上で、日々の保育活動やクラスづくり、および年間計画や行事の見直しを図る。
- ・日々の保育に新しい考えや取り組みを導入するため、継続した研修・研究を行い指導力の向上に努める。
- ・今後も教職員・保護者アンケートおよび保護者との意見交流会を実施し、保育活動の推進・改善につなげる。

令和4年度 学校関係者評価

～運営委員会での意見交流、運営委員へのアンケート結果をもとに～

〔保育に関すること〕

「子どもは、幼稚園に行くのを楽しみにしている」

「子どもは、運動会・発表会・遠足などの行事に積極的に参加している」

「先生は、一人ひとりの子どものよさを認めてくれる」

等の設問で A(よくあてはまる)が多くあり、高い評価を受けている。園児は幼稚園に行くことを楽しみに、積極的に行事に参加している。また、教職員は一人ひとりの子どものよさを認めるなかで、園児理解に努めていることが分かる。さらに、自立心の育成を促しながら、目当てを持たせ、互いに励ましあいつながりあえる保育が成果を挙げていると思われる。

「子どもは、すすんであいさつをしている」

「幼稚園は、家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている」

では、C(あまりあてはまらない) D(まったくあてはまらない)の回答が幾つか見られる。基本的な生活習慣の確立とともに、あいさつは人間関係の第一歩という意識の定着を図りたい。家庭との意思疎通については、直接会っての情報交換を基軸に、電話・手紙を使っての双方向の情報交流が必要である。情報共有に至るには、保護者の話や気持ちをしっかりと受けとめ、保育者としての考えをきちんと話し、共通理解を図ることが肝要である。

〔幼稚園経営に関するもの〕

「幼稚園は、保護者が保育を参観する機会をよく設けている」

「幼稚園が保護者に出す文書・事務連絡等は、適切である」

の2項目で、よい評価を受ける。今年度も、新型コロナウイルス感染状況のなか、各種行事・保育参観は縮小もありながら何とか実施した。地域の方々を含めた開かれた幼稚園づくりは滞ったが。運営委員の方々のご理解・ご協力により、「運営委員会活動」は通常通り行われる。「個人情報」の管理、知り得た情報については部外者に口外しないこと等、教職員に対して守秘義務の徹底を図っている。加えて、「施設・設備」では、保育の充実、子どもの安全確保を根幹に、日々の点検を行っている。「文書・事務連絡」においては、今後も適宜の送付・連絡を心掛けていく。

〔全体のまとめ〕

次年度も「一人ひとりの命輝く保育」を共通理念に、将来に向けて子どもたちの健やかな育ちの形成に取り組んでいく。保護者からの子育て相談のみならず、子育て支援にも強くなかかわっていくことが大切である。「保育・教育はまさにチームプレーである」と言われるなか、教職員一人ひとりの力量の向上に加え、園としての総和で教育力・保育力を高めていきたいと考えている。